創刊110周年記念

誇れるふるさと 24地区リレー

〈vol.24〉

＜船木① 特徴＞

かつては旧山陽道の宿場町として栄えた船木地区。明治から大正時代にかけては旧厚狭郡の政治・経済の中心だった。宇部市北部地域の南西に位置し、現在の人口は市内18番目の3315人。交通の要所としてにぎわった歴史を物語るように、東西に国道2号、JR山陽線と山陽新幹線が走っている。

厚狭郡役所

石炭採掘の発祥とも、10カ所以上に炭鉱

地区内には神功皇后の伝説が多く残されており、2～3世紀の海外出兵の際、この地にあった楠の大木で48隻の軍船を造らせたことが「船木」の由来といわれている。ゆかりの地として樹齢推定700～800年のクスノキの大樹がそびえる岡崎八幡宮、石造りのそり橋がある大木森住吉社が鎮座する。

軍船建造が地名の由来か

あまり知られていないが、国内における石炭採掘の発祥の地とも言われている。1868年から50年間は船木が最も栄えた時期だった。当時は10カ所以上に炭鉱があり、約7800人が暮らしていたという。

長州藩が設定した行政区に当たる船木宰判の代官所も設置され、石炭の採掘が盛期を迎えた1871年ごろには、船木宰判の最後の事業として南北に流れる布目川（有帆川）の改修工事が行われた。当時は川の氾濫で家屋の浸水に悩まされていたため、治水工事で約1200㍍から436㍍に短縮。流れを変えたことで洪水問題が軽減し、地区の生活を豊かにした。

船木地区を代表するものの一つに船木鉄道の存在がある。1910年に宇部停車場（現JR宇部駅）が置かれ、16年に宇部―船木駅間が開通。24年には吉部駅まで延伸し、全長は17・7キロとなった。44年に万倉―吉部駅間が休止となり、万倉―宇部駅間も61年に廃止された。

近年は、旧山陽道の古地図を使ったまち歩きにも注目が集まっており、次代に残すべき歴史や文化を多く有し、古き良き宿場町の面影を写真に収めようと、たくさんの人が訪れている。

基本データ

- 面積16.25平方キロ（6位）
- 世帯数1610世帯
- 人口3326人（18位）（男性1606人、女性1720人）
- 高齢化率43.6％
- 小学校児童数124人

※世帯数などは2023年4月1日現在